

＼ IWAKI & REPORT ／  
Vol.2 2025/9/12

# 「IWAKI & MEETING 始動！」

こんにちは！いわき市保健福祉課・地域共生社会推進係です。

今回は、「いわき市地域共生社会推進会議: IWAKI & MEETING」についてご紹介します！

その名のとおり「地域共生社会」の“エンジン”となるべく、24の団体が協力して設置した会議です。

委員の任期は、令和9年5月31日までの2年間で、地域共生社会に関係したことや、地域福祉計画のことなどの話し合いが行われます。

7月22日には、第1回目の会議を開催し、委員の団体活動を紹介したり、地域共生社会について委員間でリレートークをしたり、これから策定していく新しい地域福祉計画のことなどについて、話し合いが行われました。



メンバー、行政/医療/福祉/地域活動/メディア・スポーツの第一線でご活躍されている方々です。

事務局(行政)にも多くの課が横断的に参加しています。保健福祉部長・次長、こどもみらい部長・次長に加え、福祉・子ども関係の10課が参加しています。

## ＼ 第1回会議：地域共生社会のキーワード(発言) ／

スモールスタート、トライ&エラーを積み重ねる

成功事例に限らず失敗事例も共有

地域・近所での声掛けなどの小さな一歩が大切

若い人たちも地域に関わりたい

伝わる情報発信のしくみづくり

地区保健福祉センターの仕組み・強みを活かす

分野	所属団体	委員氏名 (分野別・敬称略)
行政	いわき市長	ウチダ ヒロユキ 内田 広之 ◎
学識経験者	東日本国際大学 健康福祉学部 准教授	ヤマモト ミホ 山本 美晴 ○
医療・福祉関係	いわき市医師会 会長	サイトウ ミチヤ 齊藤 道也 ○
	いわき市社会福祉協議会会長	アラカワ マサカツ 荒川 正勝
	いわき障害者就業・生活支援センター 所長	スドウ カツシ 須藤 勝志
	NPO法人地域福祉ネットワークいわき 事務局長	ノノベ ヨシヒロ 園部 義博
	医療法人社団鉄医会附属研究所 所長	タカハシ ケンゾウ 高橋 謙造
	いわき地区障がい者福祉連絡協議会 会長	ハセガワ ヒデオ 長谷川 秀雄
地域活動団体	合同会社いしはら葬斎	イシハラ ユキ 石原 きみ子
	いとちプロジェクト 代表	エサカ リョウ 江坂 亮
	いわき市女性消防クラブ連絡協議会会長	エントウ カズコ 遠藤 和子
	NPO法人明日飛子ども自立の里 理事長	カミナガ 神永 いつか
	NPO法人Commune with助産師 理事長	クサノ ユカリ 草野 祐香利
	いわき市民生児童委員協議会会長	シノハラ モヨシ 篠原 清美
	NPO法人共生の杜青山 理事長	タゴ ハジメ 田子 一
	NPO法人はなのこ 理事長	ニシヤマ マサヒロ 西山 将弘
	株式会社ロングリバー 代表取締役	ハセガワ マサエ 長谷川 正江
	一般社団法人SJW 代表	フェルナンド ダナンジ
	NPO法人小さな拠点おおか	フジタテ ユキ 藤館 友紀
	いわき市行政嘱託員(区長)連合協議会会長	フルタリ アサヒロシ 古川 兼良
いわき保護司会連絡協議会 会長	ワタナベ ヒロアキ 渡邊 博昭	
メディア・スポーツ	株式会社いわき市民コミュニティ放送 取締役局長	イワモト ヒロシ 岩本 裕
	株式会社LOCO 代表取締役	オシマ サキコ 小嶋 沙希子
	株式会社いわきスポーツクラブ 代表取締役	オオカワ サトシ 大倉 智

また、5名の委員から、所属する団体の活動事例などをご紹介いただきました！

1つ目は、江坂委員が代表を務める「いとちプロジェクト」です。

病院と地域の距離が遠い、接点がなかなかない違和感から、医療と地域で関わりあいを持つために立ち上がったプロジェクト。いとちの「い」は医療、「ち」は地域、日常からもっと医療と地域が近づき、関わる視野を広げ、ウェルビーイングにつなげたいという思いで活動をはじめ、現在3年目が経過。いとちの活動は大きく2つ。「医学教育」(いとちワーク/いとちツアー)と「地域交流」(いとち会議)を軸としている。

まさに医療に+αの考えで、地域との共生を考える取組み。



いとちプロジェクト

### 事例1

## いとちプロジェクト

&アクション

医療 & 地域



医と地のあいだを みんなで耕す

いとちは、医療と地域、「い」と「ち」の担い手たちによるコミュニティデザインプロジェクト。語る、聞く、旅する、学ぶ、感じる、暮らす、歩く…。さまざまな活動を通じて、医療と地域の「あいだ」を耕し、よりよい鹿島地区を目指しています。

### 内容



#### かしまホーム

高齢者向けのグループホームとして実際に使われていた「かしまホーム」が活動拠点。毎日にかしらわちゃわちゃと動いています。



#### いとちワーク

地域医療を学ぶ学生向けの学習プログラム。医師だけでなく地域の人も講師を務めます。毎週火曜日の午後に絶賛開催中！！



#### いとちかいぎ

さまざまなステークホルダー一堂に会して地域医療を議論する対話ワークショップ。あなたにとって理想の医療とは、地域とは？



#### いとちツアー

市内で活動するツアーガイドと連携し、いわき市内各地をめぐることで、歴史、文化、風土を体験。地を知ることで、医を豊かに。

2つ目は、藤館委員が参加している「NPO法人小さな拠点おおか」です。

川前町を構成する3つの地域「おじろい・おけうり・かわまえ」の頭文字。川前での暮らしを「謳歌」するのが活動のコンセプト。川前町は、R7.7.1現在、人口736人、高齢化率56%を超える地域。

歳を重ねても、体が不自由になっても、本人が望む地域、住み慣れた地域で暮らし続けることが難しくなっており、こうした地域課題の解決に向けて、自分たちでできることは自分たちでやる、そのために自分たちには何ができるのか考え、法人を設立。

地域のソーシャルキャピタルの向上につながれば、地域の活性化や交流人口の拡大など、地域振興の面でも役割を果たせるのではと、日々活動されている。



小さな拠点おおか

## 事例2

## 小さな拠点おおか OOCA

&アクション

中山間地域 & 集い & 地産地消

### 内容

私たちNPO「小さな拠点おおか」は、福島県いわき市の川前地域で少しでも、川前地域でのよりよい暮らしを目指すため、2023年に設立しました。

人口は1,000人を下回り、高齢化率も高い中山間地域ですが、みんなが集まり、気持ちや思いも集まり、食材が集まり、元気と笑顔も集まる「小さな拠点」を運営していきます。

「おおか」は、川前地域を構成する三つの地区、「おじろい(小白井)」「おけうり(桶売)」「かわまえ(川前)」の頭文字を取り、川前での暮らしを「謳歌」できるようネーミングしました。



3つ目は、田子委員が理事長を務める「NPO法人共生の杜青山」です。

住宅確保が難しい方、住まいのない方に対する支援を専門的に行う。主に国土交通省の住宅セーフティネット制度の家賃補助を活用しながら、要支援者の方々にシェアハウス(元々は近くの病院の寮であった建物を改修)として住まいを提供。これまでに、生活困窮者、障がい者、妊婦などを受け入れ。

基本的には、入居を断らないことをスタンスに、衣食住を支えることだけに留まらず、要支援者の生活基盤を整え、自立を促している。

入居者同士が互いに助け合うことができる雰囲気や資源を提供しながら、共生を目指し、これからも支援し続けるという。



共生の杜青山

### 事例3

### 共生の杜青山

&アクション

住まい(シェアハウス) & 生活支援

住宅確保に配慮を要する人たちに対して、国といわき市からの家賃補助等を活用する、セーフティネット住宅制度等を通して、住宅入居の円滑化を推進します。  
また、困りごとの相談や日常サービスを通して、生活の安定と健やかに安心して暮らせるコミュニティづくりを目指します。  
さらに、災害時や子どもたちの緊急避難場所として福祉機能の高度化を目指したいと考えます。

#### 内容



#### シェアハウス型住宅

居室はワンルームタイプで完全個室です。  
入居される方が助け合いながら普通の生活を営める場所を目指しています。



#### サブリース型居住支援

福島県で数少ないサブリース型居住支援施設です。緊急避難場所としての機能も果たします。



#### 住宅確保要配慮者居住支援法人

福島県より  
住宅確保要配慮者居住支援法人として  
指定を受けています。

■指定番号 福島県指定第10号

4つ目は、草野委員が理事長を務める「NPO法人Commune with 助産師」です。

法人の名称であるCommune(こみゅーん)には、コミュニケーションとコミュニティという意味があり、地域の中で人と人との信頼し合いながら、安心して生活していくことができることを目指し、「すべての子どもと女性に助産師の支援を」をスローガンに活動。

妊産婦から「どこに相談していいのかわからない」、「どんなサポートがあるのかわからない」と多くの声を聞き、仲間の助産師たちとともに、助産院を作り、地域に出ることを決めた。

妊娠前の女性から、子育て、健康支援まで継続して行い、女性と子どもが幸せに生きるのための支援をこれからも継続していくという。



こみゅーん助産院

#### 事例4

#### こみゅーん助産院

#### &アクション

#### 妊娠・出産支援 & 子育て支援 & 女性支援

こみゅーん助産院

親子の健やかな成長、女性の健康を促進できる環境づくり



1. 健やかな妊娠・出産・赤ちゃんの育ちの支援
2. 子どもに必要な「愛」と「遊び」を保証
3. 親や養育者の不安や負担の軽減
4. 女性に寄り添う主体的な利プロヘルスの向上
5. 子どもに優しい地域の共生協創

子どもが成人になるまで助産師と仲間たちによる長期的な育児相談 & サポート



妊娠・出産・育児をサポートする場所です。  
助産師が相談に応じ、母乳育児や乳房ケア、訪問サポートも行います。  
オンライン相談も可能で、産後ケアも提供しています。気軽にご相談ください。



10代の皆さんに寄り添い、一人一人に応じた安心・安全・自由な時間と空間を共に作る居場所です。  
自分の心と体を大切に「自分らしく」生きる・自立に向かう応援をしています。

妊産婦・乳幼児家庭、女性の皆さんに役立つ健康や子育てについて、平時から防災減災にもつながる地域交流と情報発信を行います。日々の生活や育児の中に幸せな自分時間を感じ、学びや気づきのある楽しい仲間時間を一緒に過ごしましょう。

妊婦さんや乳幼児子育て家庭が、地域で孤独を感じたりワンオペ状況とならないために、研修を受けた子育て経験のあるボランティアさんが家庭に伺い、フレンドシップの関係で「継続」と「育児・家事の協働」をする親身な寄り添い支援です。

5つ目は、大倉委員が代表取締役を務める「株式会社いわきスポーツクラブ」です。

「スポーツを通じて社会価値を創造する」をテーマに、人づくり、まちづくりを理念に10年間活動を続けている。人づくりは、健康教育、福祉、まちづくり、環境、風評対策、コミュニケーション、シティプロモーションなど7つの分野に分けて、地域で取り組む。

インクルーシブ活動では、選手たちが高齢者施設に伺い、交流し、次は高齢者の方がスタジアムにきて、選手たちを応援してくれる、非常に好評な取り組み。選手が認知症サポーター養成講座を受講する輪も広がっている。

情報を伝える、知ってもらおうという活動は、自分たちの役割と認識し、共に行っていきたい！と、特に情報発信を中心に力を入れていただけるという。



いわきFC

事例5	(株)いわきスポーツクラブ	&アクション	スポーツ & 福祉・健康など
内容	 <p>インクルーシブ活動</p>	<p><b>TOP TEAM</b> 高齢者施設での交流活動</p> <p>地域の高齢者施設と連携をし、トップチームの選手たちが施設を訪問しています。入居者との交流活動を通じて、認知症に対する理解を深めています。</p>	 <p><b>CLUB</b> 異文化交流</p> <p>Jヴィレッジで開催された対日理解促進交流プログラム「JENESYS 日本・ASEAN スポーツ×SDGs」にいわきFCが参加し、パートナー企業と連携し、ASEAN諸国の高校生らと様々なプログラムを通じて交流しました。</p>
		<p><b>TOP TEAM</b> 認知症サポーター活動</p> <p>いわきFCでは、トップチームの選手が自ら認知症サポーター養成講座を受講し、ファンの皆さんとも知識を共有しています。この取り組みは、「2024リーグチャレンジアウォーズ」でパブリック賞を受賞するなど評価を受けました。</p>	 <p>10th ANNIVERSARY</p>

IWAKI & MEETINGの詳細は、QRコードを読み込んでいただき、ぜひ、ご覧ください！

次回の「IWAKI & MEETING」は、令和7年11月27日(木)に予定しています。お楽しみに！

